

令和5年度パネル展（会期：令和6年3月26日（火）～6月30日（日））

船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2023-2024



1 はじめに - 発見から 10 年 -

船原古墳は福岡県の古賀市に所在する国指定史跡の前方後円墳です。平成 25（2013）年 3 月、船原古墳の南側の発掘調査中に、馬具や武器・武具など大量の遺物を埋納した遺物埋納坑が未盗掘の状態で見つされたことで大きな注目を集めました。それから 10 年、発見された遺物の調査・研究により、これまでに多くのことが明らかになってきました。

2 船原古墳と遺物埋納坑

船原古墳は古墳時代の終わり頃、6 世紀末～7 世紀初頭に造られた前方後円墳です。墳長は 45m 以上、後円部径 28m、前方部幅 24m 以上であり、被葬者が安置された横穴式石室は複室構造の立派なものです。しかし、過去に盗掘に遭っており、石室からは数点の金銅製品のみが見つっています。

遺物埋納坑は船原古墳の南側から 7 基が発見されています。中でも 1 号土坑からは、豪華で国際色豊かな遺物が数多く出土したことで注目を集めました。土坑は船原古墳と同時期に掘られ、様々な遺物を納めたのちに埋められています。当時の人々が古墳に伴う儀礼の場としていた空間が墳丘の外に広がっていたことを示す重要な発見になりました。

3 科学的調査の成果

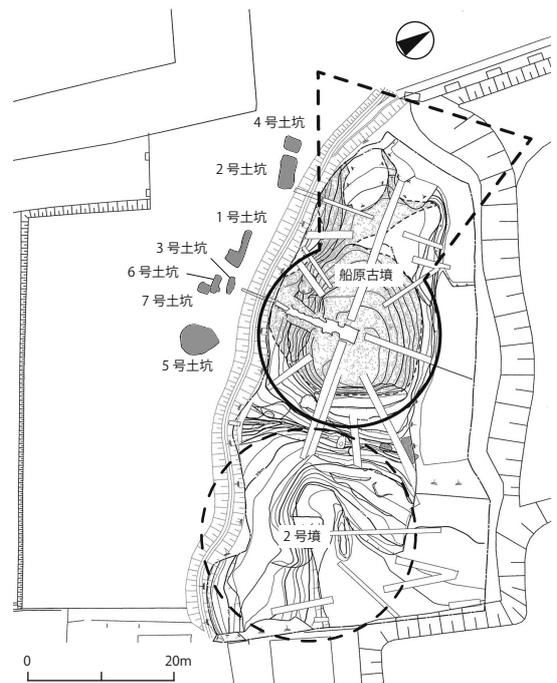
科学的調査では、遺物の材質や構造の解明、構成成分の分析、良好な状態で後世にのこすための保存処理などを行なっています。

また、大量の遺物が複雑に絡み合った出土状況を復元するため、遺物（X線CT）と遺構（3D計測）のデータを統合して、出土状況を立体的に記録・解析できるアプリケーションを開発し研究を進めています。

本展では遺物埋納坑の発見から 10 年間の科学的調査において、国内初・九州初の発見に繋がった成果について紹介します。



船原古墳全景と石室内出土遺物



船原古墳と遺物埋納坑の配置図

【金銅製歩揺付雲珠】

木の葉のように揺れる歩揺が特徴的な馬のお尻を飾る馬具です。歩揺付の馬具は朝鮮半島に出土例が多く、日本では畿内の王族や地方の有力者の古墳や沖ノ島でしか出土しない当時の一級品の馬具です。

【ガラス装飾付雲珠・辻金具】

雲珠・辻金具は轡や杏葉を吊り下げる帯が交差する箇所を留めるための金具です。中央にガラスがはめ込まれた雲珠・辻金具は日本初の発見で、韓国では新羅の王陵墓でしか見つからない貴重な資料です。

【二連三葉文心葉形杏葉】

文様板の下に玉虫の羽を挟んだ杏葉です。玉虫装飾馬具は新羅の王陵級古墳でしか出土しておらず、日本における古代玉虫装飾品の大半は国宝です。日本初の玉虫装飾馬具は、まさに国宝級の大発見です。

【馬胄】

馬用の胄で日本にはわずか3点、九州では唯一となる貴重な馬具です。日韓を合わせても約30点ほどしか確認されてらず、大将クラスの騎乗馬など特別な馬だけが装着を許された優品です。

4 馬装の復元

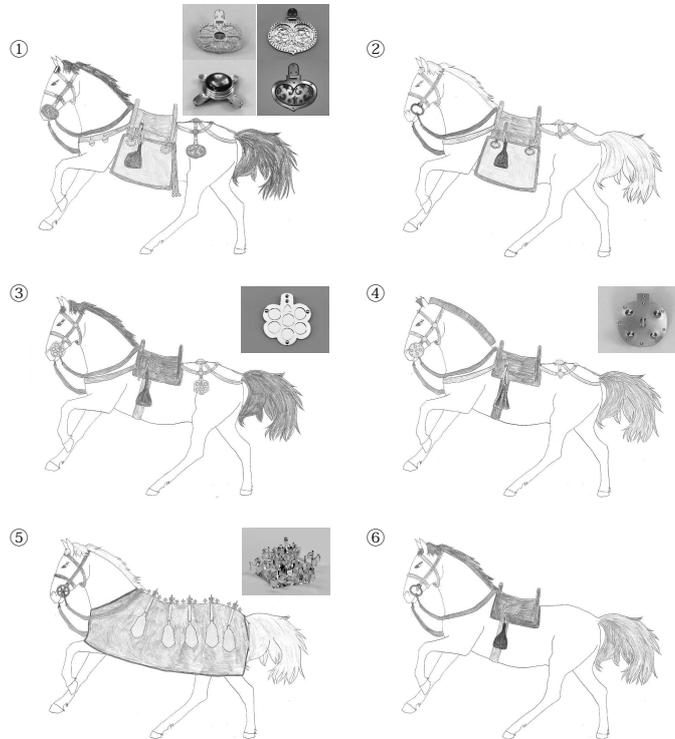
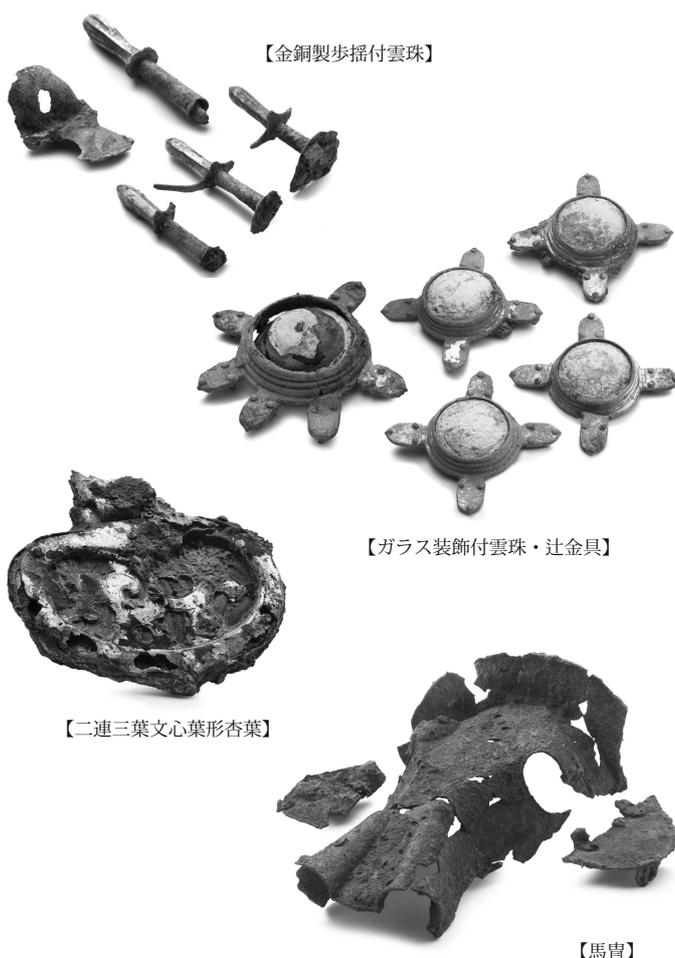
1号土坑からは馬6頭分の馬具が見つかりました。どの馬にどの馬具を組み合わせていたのか、最新の馬装復元は以下の6通りとなっています。

- ①忍冬唐草文鏡板と鳳凰文心葉形杏葉のセット
- ②大型矩形立間造環状鏡板のセット
- ③花形鏡板と花形杏葉のセット
- ④円形打出文鏡板のセット
- ⑤歩揺付雲珠のセット
- ⑥立間鉸具造環状鏡板のセット

5 まとめ

遺物埋納坑の発見から10年間の継続的な調査・研究により、国内初・九州初といった貴重な発見がありました。現在、その成果を調査報告書にまとめています。今後も新たな発見が期待される船原古墳遺物埋納坑の成果に是非ご期待下さい。

(学芸調査室 小林啓・古賀市教育委員会)



【馬装の復元図】(作図|古賀市教育委員会 西幸子)

※馬装復元は令和6年3月現在の研究成果を基にしており、今後の研究で内容に変更が生じる可能性があります。



編集 発行: 令和6年3月26日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <https://kyureki.jp>